

# 碁打ち脳活性化

## 弘大付小プロ棋士、児童に授業

弘前

思考力を育むとされる囲碁の教育効果を知ってもらおうと、弘前市の虚空<sup>ソウコウ</sup>囲碁クラブ(古川元代表)は15日、弘前大学付属小学校(田中完校長)で囲碁の授業を初めて開いた。古川くんゆプロ二段が講師を務め、3年生105人が囲碁の基本を学び親しんだ。(佐藤彩乃)



プロ棋士による授業を通して囲碁に親しむ子どもたち

古川二段が基本ルールを説明し、「あと1回で囲まれてしまふ形『アタリ』になったら、その場に自分の石を増やせば取られない」「なるべく相手を狭いところに追い込んで」などアドバイスした。



囲碁の基本ルールを説明する古川くんゆ二段

児童たちは石取りゲームや対局に熱中し、勝敗が付くと歓声を上げていた。三上莉礼さん(8)は「難しいと思っていたが、案外簡単で楽しかった」とこり。永山敬君(9)は「面白かった。最初に比べて、上手になった」と話した。同クラブによると、プロ棋士による囲碁の授業が行われたのは県内の小学校では初めて。囲碁人口は全国的に減少しているといい、古川代表は「囲碁は子どもを脳を活性化させる研究結果が出ている。囲碁の教育的価値を高め、囲碁に親しむ子どもを1人でも増やしたい」と話した。